

9月21日から22日にかけて、能登半島では、激甚災害に指定されるほどの豪雨が襲った。ニュース映像や被災地から送られてくるメールで、その被害の大きさに呆然とする。家屋が濁流に押し流され、河川と道路の区別がつかない。復旧に向かおうとしていた被災地の景色が、再び残酷なものへと変わっていた。「また地区が孤立した」「インフラが震災当初に逆戻りした、水も電気も駄目になった」「地震よりも被害が酷い、もう住めないかもしれない」「まだ、家族と連絡が取れない」と途切れる電波の中、メールが届く。地震によって起きていた護岸の崩壊による堤防の機能低下や海底隆起などの地形変化もあり、被災地の23河川が氾濫し、被害は拡大した。大規模な土砂災害が起こり、再び道は寸断された。

また、海に面している能登半島は山間地も多く、仮設住宅を浸水想定区域に整備せざる得ない場所あり、そういった地域では胸の位置まで泥水が押し寄せた。震災後に買い揃えた新しい電化製品や家具は、全て廃棄となった。

そのような中、震災復旧や公費解体などのために、多くの重機や作業員の方々が現地にいたことで、大動脈道路の復旧や各地域に入る道の確保につながり、緊急車両が早急に駆けつけることができたのは、せめてもの救いであった。23日の時点で、道路寸断による孤立集落は115あったが、1週間を待たずして解消された。

*

*

*

2024年9月24日(火)

御陣乗太鼓保存会(輪島市名舟町)

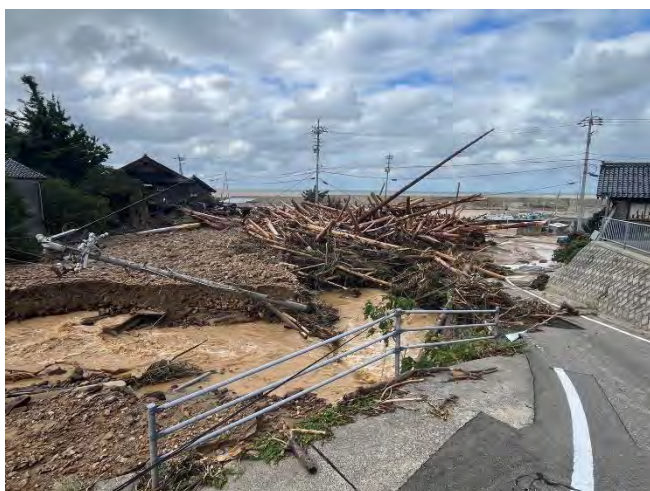
22日、御陣乗太鼓保存会の槌谷博之代表から、名舟町の状況が伝えられる。停電と断水、町が孤立して出られない、電波状況は極めて厳しいから繋がらないかもしれない、と写真が送られてくる。そこには、「地震の時より酷い」と書き添えられていた。



写真提供 御陣乗太鼓保存会 槌谷博之代表: 輪島市名舟町 9月21日の様子



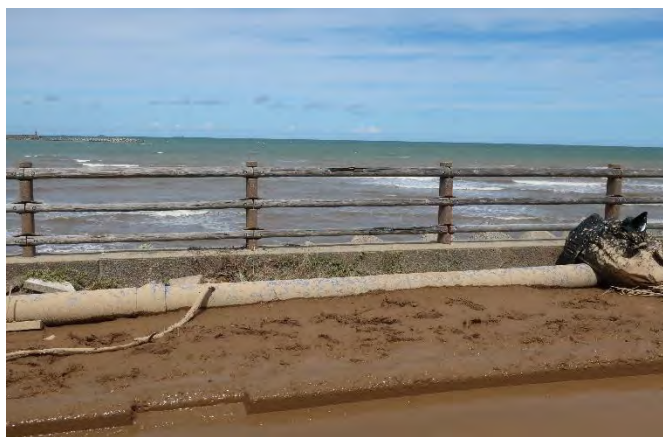
写真提供 御陣乗太鼓保存会 槌谷博之代表：輪島市名舟町 9 月 21 日の様子



写真提供 御陣乗太鼓保存会 槌谷博之代表：輪島市名舟町 9 月 22 日の様子
左写真 土砂崩れと河口部の氾濫で、左側にあった家屋が跡形もなくなった

23 日昼に孤立が解消し、車で電波が繋がる場所まで移動された樋谷さんから、太鼓が水に浸かり、破れてしまっていると連絡がはいる。仮設住宅のみ電気と水が復旧したが、自宅に住んでいる方々のライフラインは完全に止まってしまった。自衛隊の第一弾の支援物資が多く届いていないとの情報もあり、要望を聞きながら支援物資を準備する。以前、佐渡島の方から、能登半島のためにと個人的に託されていた寄付金を有難く使わせていただき、自家用車に詰められるだけの支援物資を購入し、翌日の 24 日に伺うことになった。

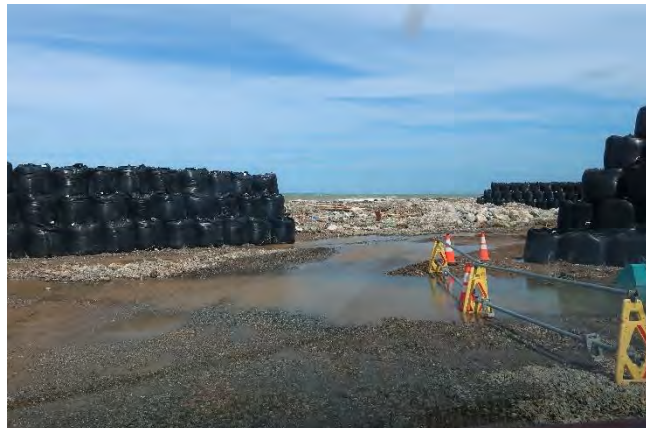
輪島市に入るにつれ、景色が変わっていく。すれ違う車は泥で汚れ、たくさんの流木が橋に堆積し、水は茶色く濁っている。場所によっては、河川近くの家屋や道が崩れ、その上に土砂が堆積し、元の景色が分からなくなってしまうほどである。行方不明者の捜索隊車両の横を通り抜け、白米千枚田へと向かう。応急復旧工事で布設された、青い水道管も泥に埋もれ、タイヤは泥しぶきをあげる。重機でかき分けられた道がひたすら続く。



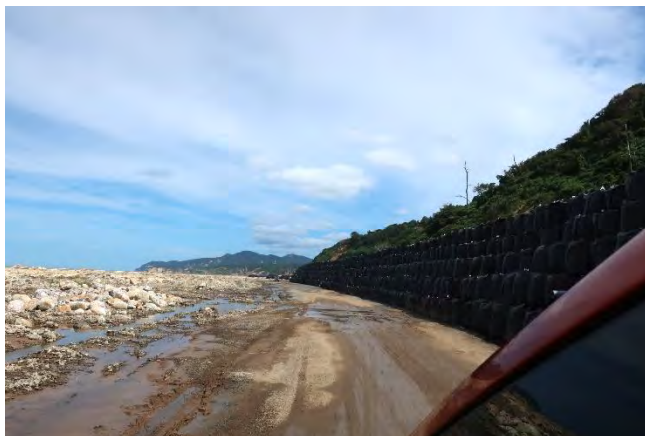
今回の水害で、5 月に開通した名舟町への入り口となる、応急復旧道路は使えなくなった。しかし 24 日の早朝に、道路とは呼べないが、白米千枚田から名舟町に入る道が確保され、当初よりも早く現地に入ることが出来た。



バスの停留所は土砂で埋まる



名舟町への道 隆起した海岸のすぐ真横を走る



名舟町集会所でもある御陣乗太鼓会館に支援物資を運び、太鼓を確認しに行く。次の演奏のために、太鼓ケースに入れて、槌谷さんの車庫に一時的に置いていたところへ今回の豪雨が襲った。泥水で家の前の側溝は詰まり、道路の水位はあっという間に上昇し、車庫が浸水してしまった。太鼓ケースも泥水で汚れ、水に浸かった革は破れている。支援対象としてお預かりする。





太鼓を車に積み、槌谷さんと町を歩く。8 月に開催された名舟大祭での住民達の笑顔を思い出す。目の前に広がる景色は、あまりにも残酷でやりきれない。海の色は茶色く濁り、地震により隆起していた漁港には、大量の流木やゴミ、更に重い泥が堆積している。震災後は山の土砂が海に少しずつ流出し、海底の変化が起こっていた。しかし、魚や貝類が減ったものの漁獲できないわけではなかった。

この水害により、海底に泥が積もりすぎて、海藻や貝類はもう全滅かもしれないと聞く。河口付近の橋は、大量の流木によって塞がれて、どこからかインスタントハウスが流れ着き、道路には土がこびりついていていた。



豪雨の時の様子を樋谷さんに聞きながら、車で山手へと登る。海側に近い仮設住宅には濁流が迫り、現地にいた工事関係者の方々に手伝ってもらいながら、住民達を高い位置にある仮設住宅へと避難誘導していたという。そんな中、山の方からもミシミシと音が聞こえてきて、もし崩れたら全員終わりだ、でも下に逃げる事も出来ない、あの時は覚悟したと語って下さった。

電柱はなぎ倒され、完全に道を塞いでしまっている場所もあり、車から降りて歩く。足元には赤茶けた落石がゴロゴロと転がっている。「住民たちの命は無事だったんだけど、直し始めていた家が駄目になった人もいるし、インフラも逆戻り、もう流石に今回は、、、。心が折れそうだね。でも、太鼓は打っていくよ。」と呟かれた。

御陣乗太鼓保存会は、10月6日、奈良県の東大寺で奉納演奏を行い、8日には薬師寺での奉納演奏、更に岐阜県で開催された国民文化祭の開会式では、昨年の石川県に続き、再び、天皇皇后両陛下の前で太鼓演奏を披露した。その他も県内外各地のイベントで、休みなく打ち続けている。450年、脈々と受け継がれてきた伝統を絶やすわけにはいかない。そんな強い気持ちが、被災地を勇気づけてくれる。



町野祭り太鼓(輪島市町野町)

9月15日に太鼓の調査に訪れた町野町へと向かう。あれから1週間後、まさかこれ程までの、甚大な二重災害を受けると誰が想像できたであろう。どの道が通行可能か分からず、樋谷さんに町野町の入り口まで案内してもらう。

前回走行できた道は、通行止めとなっており、交互通行の山の中を走る。崖崩れや、路面の崩壊、道の両脇には大きな流木や湿った土砂が積み上げられ、タイヤは再び泥しぶきをあげる。まだ豪雨災害から2日しか経っていない中で、ここまで道が繋がっている。重機の音は夜通し続いただろう。作業された方々に本当に頭が下がる。

しかし、震災の時よりも状況は酷くなっていた。今回の水害では「山津波」とよばれる現象が起き、上流で崩れた土砂が、泥流となり勢いをつけて一気に下方へ流れた。同町もそれに呑み込まれた。多くの家屋に流木が突き刺さっている。



途中、樋谷さんと別れ、町野祭り太鼓の練習場である、輪島市立町野公民館（輪島市町野多目的集会施設）へと向かう。公民館の近くの河川も氾濫し、応急復旧した水道管も破壊された。同町も電波がほとんど通じず、スターリンクが設置されている場所まで行かなければ連絡がとれない。

近くにある学校は全て床上浸水し、ガラス窓には茶色の境界線がくっきりと残り、グラウンドのネットには、流されてきたものがひっかかっている。2メートルほどの高さまで、家屋に泥水が浸水した形跡が残っている場所もある。

本来なら往来できたはずの道の手前で車を止め、薄茶色になった道を歩き、同団体代表者の柳田尚利さんに電話をかける。乾燥した汚泥の土埃が舞う中、時間が経つにつれ目がかゆくなり、暑さでマスクを下ろした途端に喉がヒリヒリしてくる。水害が起きた後の土砂には、様々なものが含まれており、発熱や咳、肺炎を引き起こすとされている。



柳田さんと、現在お住まいの仮設住宅で合流し、支援物資をお渡しし、太鼓保管場所の状態や現状を伺った。保管場所である公民館は床上浸水してしまい現在は使用できないが、太鼓は無事であると話される。柳田さんは当時、七尾市で行われた輪島和太鼓虎之介の演奏にお子さんと参加しており、町野町にいた奥様と連絡が取れなかった。夕方ようやくご家族の安全が確認され、メールでその無事を報告してくださった。こういった場合もあるので、災害が起きてすぐに被災地に電話確認するのは、できるだけ控えた方が良い。ご家族や身近な方との連絡を優先させてあげて、被災地からの連絡を待ってあげて欲しい。どうしても場合は、簡潔に、返信不要の言葉かけにすることも、支援の一つである。

「一体、どうして、こんな……。僕の農作業のトラックも水没して使えなくなりました。子どもたちがみんなで作った畑アートも水没しました。」と当時の動画を見せてくださる。農業に従事されている他の太鼓関係者の中にも、今回の水害で、収穫前の稲や畑が泥に浸かってしまい、震災後はなんとか前を向いてきたが、もうこの土地はあきらめ、農業自体も続けるかどうか悩んでいると何う。

後日、柳田さんより、当時の写真いただき、11月から公民館が練習場として使えるようになるとご連絡を受ける。次回、支援対象となった太鼓を納品する予定である。



写真提供
町野祭り太鼓 柳田尚利代表



珠洲八幡太鼓保存会(珠洲市正院町)

輪島市町野町を後にし、連絡のあった珠洲市正院町に向かう。道路には泥が残り、水害で浸かってしまった稲や野菜が目に入る。同保存会の事務局である瓶子明人さんから当時の動画が送られてきた。車のタイヤは半分ほど水に浸かり、膝上の高さになった泥水の中を歩く様子であった。

正院町市内は、若干の勾配があり、床上浸水の箇所は少なかったが、山手は大きな被害を受けた。訪れた時には、まだ通水していたが、現在は分からない。取水する川の水が濁り、配水池の水がつかれば珠洲市全域で計画的な断水が起こると情報があった。断水を見越して仮設住宅エリアにも仮設トイレが設置されたことを瓶子さんから伺った。太鼓の保管場所である神社は無事であったとの報告も受ける。



*

*

*

2024 年 10 月 11 日(金)

馬縹キリコ太鼓保存会(珠洲市馬縹町)

馬縹町のある大谷地区も輪島市と同様に、連日行方不明者の搜索のニュースが流れていた。同保存会の事務局であり消防士である豊平慶彦さんには、10 月に入るまで、こちらからの積極的な連絡はしばらく控えていた。電波が繋がりにくい中、一本の電話が人の命にかかわるかもしれないからだ。豊平さんに道路状況なども確認し、支援対象となった平太鼓1台の納品に伺う。

地震発災当時も道路崩落や土砂崩れによる地区の孤立があったが、今回の豪雨で再び外部との往来が遮断された。数日で道路は仮復旧したが、土砂や倒木をかき分けているだけの状態なので、再び激しい雨が降ると、どの道が通れなくなるのか分からない。今回の豪雨災害により、地震の時に使うことのできた山の湧き水は濁ってしまい、汲みにも行けないという。水の復旧は順調にいても11月末までかかるそうだ。水害から2週間以上経っても、山の近くの崩壊場所からは水がしみ出し、沿岸部の海水は濁ったままである。



同保存会の太鼓は、支援報告書 11 に書いたとおり、3箇所保管してあった。珠洲市自然休養村センターは現在も避難所となっており、近くの建設会社倉庫は地震による雨漏りが激しく保管場所としては使えない。また、珠洲市立大谷公民館は自衛隊の支援活動拠点となり仮設風呂が設置され、入ることは出来ない。そのため、太鼓を珠洲市立大谷小中学校の体育館に避難させたと伺い、そこで待ち合わせをする。

生まれ変わった太鼓に、豊平さんが感嘆の声をあげられる。大変な状況ではあるが、ご支援してくだっただ方々の想いと、やはり太鼓は続けていきたいので、11月23日の勤労感謝の日に合わせて、体育館で演奏してみようかと話された。



修理前 平太鼓



修理後 平太鼓

その後、避難所である珠洲市自然休養村センターを訪れた。9月24日と同様に、頂いた支援金から購入させていただいた支援物資をお渡しする。事前にどのようなものが必要か伺い、果物やサツマイモをお渡した。

避難所の入り口には、前回とは違って、朱塗りの御膳が並べてあった。10月13日に、規模を縮小したキリコ祭りと「ヨバレ」を行うと伺う。能登の風習である「ヨバレ」は、祭りの日に親戚や友人らを自宅に招き、朱塗りの御膳にご馳走を盛り、もてなす。祭礼の日は、集落の家々の玄関は開け放たれ、誰でも出入りできるようになっている。自然の恵みを大切にした家庭料理を食べながら、キリコの巡行を楽しみ、賑やかな時間を過ごす。「こんな時に」ではなく、「こんな時だからこそ」祭りを開催する意味があるのだ。避難所でお会いした方々の顔を見て、そう感じる。

太鼓演奏がありましたら是非教えてくださいと、豊平さんにお伝えし、大規模な山津波が起きた現場に足を運ぶ。一見乾いていそうな土砂でも、足を入れるとズブズブと底なし沼のように沈む。堆積したねっとりとした土砂からは、ツンと鼻を指す匂いがする。護岸は大きく崩れ、道路のすぐ側にあった遊歩道がなくなり、川幅が広がっている。あまりにも変わってしまった街の様子に、頭が真っ白になった。道がない、民家の1階がない、そもそも家屋がなくなっている、全てが土砂に押しつぶされ埋もれてしまっていた。土砂の沈み方に、進むのは危険と判断し、すぐに引き返す。





珠洲市沿岸部 鵜飼地区

珠洲市の沿岸部を走り、帰路へと向かう。夕暮れになると肌寒い。未だにほとんど時間が止まっている被災地がある。公費解体が少しずつ進みは始めているが、住民の姿はほとんど見当たらない。地面から飛び出たマンホールも錆び始め、瓦礫の間や人が通らなくなった道には草が生い茂っている。地震で津波被害を受けた集会所の前に行くと、キリコの太鼓が置いてあった。以前はなかったので、誰かが探しだして置いたのだろう。よく見ると、他のキリコ倉庫も少しだけ片付き始めている。誰かが、まだ、この土地を守ろうとしてくれている。風によって、金木犀の甘い香りが、かすかに漂う。この景色には不釣り合いかもしれないが、何故かほっとした。



＊

＊

＊

今回の水害により、太鼓の運搬車両が故障する、自家用車が水没してしまった太鼓団体がいるとの報告も受けています。県外演奏に行きたくても、運搬費や交通費の負担で二の足を踏む場合があります。支援報告書 11 に掲載しましたが、当財団に集められた皆様の寄付金の一部を、被災地の太鼓団体が県内外で演奏活動を行うための支援として、石川県支部にお渡ししております。被災地の太鼓団体にかかる宿泊費・交通費・運搬費に対し、当該資金を充てることができます。

申請ご希望の方は、詳細を石川県支部事務局までお問合せください。

(公財)日本太鼓財団 寄附金支援事業支出計算表(10 月分)

団体名	内容	金額
馬縹キリコ太鼓保存会		895,600

合計

895,600

＊

＊

＊

引き続きご寄付を頂いていております。ありがとうございます。

9月29日和太鼓フェスティバル in 丹波篠山(兵庫県)、10月6日全国障害者大会(奈良県)、10月23日国文祭「太鼓の祭典」において、来場者の方々からご寄付を頂きました。ご寄付くださった皆様、ご配慮くださった兵庫県支部の方々に感謝申し上げます。

寄付金の累計額は10月31日現在で、13,734,231 円となりました。

お預かりした寄付金は大切に使ってまいります。

本文にもございますとおり、寄付金の一部をより実情に合わせて使うため、被災地の太鼓チームの県外への派遣、復興イベントの開催等に使用可能にしております。当該資金による事業にご希望のある方は、石川県支部事務局までお問合せください。

収支計算書(10/31 現在)

(単位:円)

収入		金額	備考
1/5	全九州太鼓連合	1,000,000	
1/6	関八州太鼓連合	100,000	
1/9	東北太鼓連合	300,000	
1/18	浅野太鼓楽器店	1,000,000	
1/27	河合 光夫	10,000	シニアコンクール出場者

1/29	福井県太鼓連盟	30,000	
1/29	松本 弘昭	35,000	シニアコンクール出場者
2/1	東京都支部	100,000	
2/2	櫛引 秀明	50,000	シニアコンクール出場者
2/2	浅野 義幸	100,000	浅野太鼓楽器店 17 代当主
2/6	岡山県支部	110,000	
2/7	宮城県太鼓連絡協議会	150,000	
2/8	北海道道東支部	30,000	
2/9	茨城県支部	95,000	
2/13	千葉県支部	100,000	
2/13	岐阜県太鼓連盟	100,000	
2/13	岐阜県太鼓連盟獅子の会	50,000	国文祭ゲスト団体
2/13	全九州太鼓連合	2,805,701	
2/14	神奈川県支部	50,000	
2/16	佐々城 清	1,000,000	常務理事
2/16	高野 右吉	10,000	評議員、前副会長
2/16	宮城県太鼓連絡協議会	20,000	
2/16	滋賀県支部	50,000	
2/18	兵庫県支部	200,000	
2/26	日本太鼓財団事務局	143,000	
2/29	静岡県支部	100,000	
3/1	奈良県支部	162,000	
3/4	台湾太鼓協会	500,000	
3/7	北海道道北支部	132,628	
3/11	宮本卯之助商店	1,000,000	
3/14	栃木県支部	106,984	
3/15	群馬県支部	98,000	
3/18	和歌山県支部	130,000	
3/18	北海道道央支部	25,000	
3/19	長野県支部	540,537	
3/21	西岡 知則	30,000	シニアコンクール出場者
3/21	愛知県支部	257,632	
3/26	NPO 法人てほへ	150,000	志多らグループ会社
3/27	(有)志多ら	350,000	
3/27	ブラジル太鼓協会	440,000	
3/28	西川恵美子	50,000	評議員
3/28	北海道道南支部	150,000	
3/29	NPO 東京都太鼓連合	100,000	

3/29	日本太鼓財団東京都支部	500,000	
3/29	日本太鼓財団三重県支部	10,000	
3/29	日本太鼓財団島根県支部	100,000	
4/19	鶴岡太鼓フェスティバル	50,000	
4/25	岐阜県太鼓連盟	28,000	
4/30	逢鷲太鼓連 久野壯	50,000	
4/30	逢鷲太鼓連	92,000	
5/13	広尾陣屋太鼓保存会	10,000	
6/27	西岡 知則	30,000	シニアコンクール出場者
7/16	日比谷音楽祭	609,000	
9/27	西岡 知則	30,000	
10/1	日本太鼓財団兵庫県支部	200,000	9/29 和太鼓フェス in 丹波篠山
10/15	障害者大会来場者募金	18,088	10/6 障害者大会
10/23	国文祭来場者募金	45,661	10/20 国文祭

計 13,734,231

支出		金額	備考欄
1/11	輪島支援物資	121,741	
1/19	穴水/能登町/志賀町	130,080	
1/27	志賀町/輪島	18,415	
2/8	名舟町	54,780	
2/11	輪島	28,534	
1~2月	各チーム交通費	67,714	
4/1	バチ	20,185	
4/3	横断幕	38,500	
3月	各チーム交通費	105,152	
4月	各チーム交通費	14,973	
5月	各チーム交通費	4,637	
6/28	太鼓修繕	344,000	須須守護神太鼓保存会
7/11	太鼓支援活動の助成金	3,800,000	日本太鼓財団石川県支部
8/1	太鼓修繕	2,588,000	山王太鼓、弁天夢太鼓、珠洲八幡太鼓
9/12	太鼓修繕	1,465,200	龍神太鼓保存会
7月	各チーム交通費	4,637	
10/31	太鼓修繕	895,600	馬縹キリコ太鼓保存会

計 9,702,148

収支差額		4,032,083
------	--	-----------